

(様式第 9)

医板病公発第 7 7 号  
平成 2 4 年 1 0 月 5 日

関東信越厚生局長 殿

東京都板橋区大谷口上町  
日本大学医学部附属  
病院長 丹正 勝彦

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平 2 2 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	182.3人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	653人	80.1人	733.1人	看護補助者	36.7人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	14人	6.4人	20.4人	理学療法士	14人	臨床検査技師	100.5人
薬剤師	54人	0.2人	54.2人	作業療法士	1人	衛生検査技師	0人
保健師	75人	0人	75人	視能訓練士	7.5人	その他	0人
助産師	39人	0人	39人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	865人	13.1人	878.1人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	7人	0人	7人	栄養士	2人	その他の技術員	14.3人
歯科衛生士	3人	0.8人	3.8人	歯科技工士	1人	事務職員	104.3人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	75人	その他の職員	43.7人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	723.0人	3.6人	726.6人
1日当たり平均外来患者数	2,098.5人	64.0人	2,162.5人
1日当たり平均調剤数	外来分：20.1剤 入院分：823.6剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
前眼部三次元画像解析	36人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
な し	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	広範囲重症熱傷症例に対する時価培養表皮移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 自己の小皮膚より作成した自家培養表皮を用いて熱傷創の皮膚再建を行う治療			
医療技術名	自家脂肪注入による乳房再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腹部や大腿より吸引採取した自家脂肪を注入して行う乳房再建術			
医療技術名	内視鏡下経上顎洞バルーン法による眼窩骨骨折の低侵襲治療	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 眼窩骨骨折に対して顔面に皮膚切開を行わず、骨移植も行わないで低侵襲に治療を行う方法			
医療技術名	定位(体幹部)照射	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 初期の肺癌においてコプラナー、ノンコプラナー照射を行い、肺癌に線量を集中させる技術。JCOG放射線治療グループのJCO40403という臨床試験が終了しており、これに基づいて治療を行っている。			
医療技術名	定位(脳)照射	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳腫瘍に線量を集中させる技術で、γナイフやサイバーナイフが広く知られているが当病院は、ライナックで行っている。			
医療技術名	HDR-RALS	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 子宮腔内に線源を挿入し治療を行う。			
医療技術名	I-125 Brachytherapy	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 前立腺内に小線源を配置する治療法。当病院では術前・術直プランを作成し挿入している。 (治療に用いるソフトの関係で術中プランは難しい)			
医療技術名	口腔癌に対する超選択的動注療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 口腔癌に対して、主に橈骨動脈を用いてセルジンガー法により外頸動脈を介して腫瘍の栄養動脈に超選択的治療をすることが可能であり、これに放射線治療を重ねて良好な成績が得られる。ステージIVにたいしても手術侵襲の軽減化が可能である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 薬物療法に反応しない難治性うつ病、薬物療法における副作用のために外来薬物療法が困難な患者、昏迷状態を呈した緊張型統合失調症患者に対しては、電気けいれん療法が最も有効な治療手段になる。われわれが行っている修正電気けいれん療法は、確実なけいれん誘発と安全かつ速やかな回復を目指し、手術室において、全身管理の下で実施している。頭記のような治療困難に関して地域の病院からの依頼も多い。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にて腎盂尿管の離断と狭窄部の解放と腎盂尿管の縫合を行う			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にて、腎腫瘍の切除を行い、切断面の腎実質縫合を行う			
医療技術名	メッシュを用いた骨盤臓器脱手術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 経膈的なアプローチで骨盤臓器脱に対するメッシュによる骨盤症再建を行う			
医療技術名	腹腔鏡下小切開前立腺全摘術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 腹腔鏡の補助下に通常の皮膚切開よりも小さな創より前立腺を摘出する			
医療技術名	肝尾状葉切除術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 尾状葉に存在する原発性肝癌、転移性肝癌に対する肝切除術			
医療技術名	臍頭十二指腸切除術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 膵臓癌及び胆管癌に対する手術手技			
医療技術名	右開胸開腹食道亜全摘術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道癌に対する頸部、胸部、腹部の3領域を郭清する手術手技			
医療技術名	咽頭喉頭食道摘出血行再建を含む遊離空腸再建	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 頸部食道癌に対する根治術。耳鼻咽喉科、形成外科、消化器外科にまたがる3科共同手術			
医療技術名	肝尾状葉合併切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 原発性肝癌、転移性肝癌に対する尾状葉を含めた肝切除術			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	91人	・膿疱性乾癬	14人
・多発性硬化症	84人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	187人	・原発性胆汁性肝硬変	375人
・全身性エリテマトーデス	728人	・重症急性膵炎	20人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	5人
・再生不良性貧血	109人	・混合性結合組織病	128人
・サルコイドーシス	167人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	20人	・特発性間質性肺炎	85人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	382人	・網膜色素変性症	21人
・特発性血小板減少性紫斑病	246人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	341人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	27人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	24人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	70人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	76人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	15人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	520人
・悪性関節リウマチ	21人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	774人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	55人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・後縦靭帯骨化症	2人	・肥大型心筋症	95人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	4人
・モヤモヤ病( Willis動脈輪閉塞症)	9人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	43人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	15人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	4人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	675人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節	・
・胎児心エコー法	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年10回開催
部 検 の 状 況	部検症例数 71例 / 部検率 16.20%



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Th17細胞系蛋白が前眼部慢性炎症・感染において課す役割に関する研究	山田 愛	眼科	108万	補	科学研究費・若手研究 (B)
動的光散乱法による非侵襲的前房内組成定量装置の開発	忍田 太紀	眼科	130万	補	科学研究費・若手研究 (B)
角膜におけるIL-6トランスシグナリングの役割と病態との関連について冠動脈粥腫破壊機構を解明するための三次元破壊力学手法による独自の解析と治療法開発	崎元 暢	眼科	117万	補	科学研究費・若手研究 (B)
安定プラークの評価と病理組織所見との対比とプラーク安定化の機序解明	廣 高史	循環器内科	170万円	補	科学研究費
低分子重GタンパクRac1の血管障害後の新生内膜形成における役割	平山篤志	循環器内科	52万円	補	科学研究費
子宮頸部病変におけるHPV型別持続感染の臨床的意義に関する研究	李 予昕	循環器内科	247万円	補	科学研究費
バーチャルスライドを用いた病理診断コンサルテーションシステムならびに教育用データベースの構築	根本 則道	病理診断科	150万円	補	日本大学医学部50周年記念助成金
乳癌の遺伝子変異多用途性とコロナリター解析：癌細胞系譜の解明と再発治療の適正化	根本 則道	病理診断科	100万円	補	独立行政法人国立がん研究センター
病理組織検体をを用いた免疫染色の精度管理システムの構築	増田 しのぶ	病理診断科	60万円	補	科学研究費補助金
急速凍結ディープエッチング法によるヒト胃腸管間質腫瘍のマトリックス細線維の解析	増田 しのぶ	病理診断科	140万円	補	独立行政法人国立がん研究センター
急速凍結ディープエッチング法を用いたスケノイド線維の組織発生に関する研究	逸見 明博	病理診断科	330万円	補	文部省科学研究費 基礎研究C(2)
高齢者肝癌患者に対する至適周術期管理の検討	逸見 明博	病理診断科	50万円	補	日本大学学術研究助成
ホルモン不応性前立腺癌の分子標的治療に関する基礎研究	逸見 明博(分担)	病理診断科	80万円	補	日本大学学術研究助成金
抗がん剤耐性の進行性膀胱癌に対する新規抗体医薬の開発	唐 小燕	病理診断科	平成22~24年度計468万円	補	学術振興会科研究費(文部科学省、基盤研究C)
課題番号(21指-16)小児難治性疾患における病理診断の標準化およびデータベースの構築とその有効利用	佐野 誠	病理診断科	17万円	補	日本大学医学部土岐研究助成金
小児・若年成人等の多様な希少がん種に対する効果的資料開発に関する研究	渡辺 紀子(分担)	病理診断科	平成21~23年度計250万円	補	国立成育医療センター
膵帯血、膵帯組織幹細胞を用いた新規細胞治療の開発	斐島秀雄	小児科	50万円	補	厚生労働省がん研究助成金(原班)分担研究者
小児がんの罹患数把握および晩期合併症・二次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究	研究代表者：斐島秀雄	小児科	559万円	補	日本大学学術研究助成金総合研究
小児固形腫瘍領域で欧米臨床導入済みの国内適応外抗腫瘍薬のエビデンス確立のための研究	斐島秀雄	小児科	60万円	補	厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業(黒田班)分担研究者
神経芽腫における標準治療の確立と新規治療の開発に関する研究	斐島秀雄	小児科	12万円	補	厚生労働省科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業(小川班)分担研究者
膵帯血リンパ球を主成分とする細胞治療製剤の医薬品化に関する研究	斐島秀雄	小児科	35万円	補	厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業(池田班)分担研究者
膵帯血・膵帯由来幹細胞の機能評価と小児疾患に対する細胞治療への応用	斐島秀雄	小児科	70万円	補	厚生労働省科学研究費補助金政策創薬総合研究事業(藤原班)分担研究者
「遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究」	研究代表者：斐島秀雄	小児科	140万円	補	日本学術振興会科学研究費補助金基盤(C)研究代表者：斐島秀雄
周産期脳障害に対する自己膵帯血幹細胞による脳機能再生の治療戦略	住友直方	小児科	150万円	補	厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等克服研究事業)
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確率のための研究	細野茂春	小児科	80万円	補	文部科学省科学研究
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法のための開発	吉田 行弘	整形外科	35万円	補	厚生労働省
椎間可動性を温存した脊椎制動システムの開発	徳橋 泰明	整形外科	200万円	補	厚生労働省
	徳橋 泰明	整形外科	90万円	補	文部科学省

ポルフィリン化合物の放射線増感効果を利用した骨肉腫治療法の開発	吉田 行弘	整形外科	390万円	補	文部科学省
心肺停止蘇生後に対する体性感覚誘発電位を用いた脳低温療法の適応に関する研究	守谷 俊	救命救急センター	50万円	補	厚生労働省科学研究費 学術研究助成基金助成金
救急車プローブデータに基づく広域救急活動におけるプレホスピタル・サポートシステムの検討	守谷 俊	救命救急センター	150万円	補	公益財団法人三井住友海上福祉財団
PIポリアミドによるMYC下流遺伝子の発現抑制と抗腫瘍効果の検討	相馬正義	総合科 (内科)	200万円	補	学術振興会科研費
ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	相馬正義	総合科 (内科)	1780万円	補	文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
予防医学のための携帯型心電計普及事業	笠巻祐二	総合科 (内科)	140万円	補	日本心臓財団
単一遺伝子疾患における遺伝子変異の新規検出方法確立—関連解析の応用—	中山 智祥	臨床検査医学科	90万円	補	学術振興会科研費
うつ病と睡眠時間の疫学的関連性及び睡眠指導によるうつ病予防法	内山 真	精神神経科	80万円	補	学術振興会科研費
OCQJ日本語版の開発と子供の朝型-夜型に関する研究	内山 真	精神神経科	50万円	補	科学研究費補助金
統合失調症における家系を用いたゲノムワイド関連研究のメタ解析	高橋 栄	精神神経科	100万円	補	科学研究費補助金
がん患者の緩和療法の開発と多施設共同研究システムの構築に関する研究	金野 倫子	精神神経科	50万円	補	独立行政法人国立がん研究センター
ピロゾール・インダゾールポリアミドを用いた前立腺癌関連融合遺伝子発現抑制の検討	大日方 大亮	泌尿器科	429万円	補	文部科学省
ピロゾール・インダゾール (PI) ポリアミドを用いた前立腺癌新規遺伝子治療薬の検討	大日方 大亮	泌尿器科	50万円	補	日本泌尿器科学会
女性骨盤臓器脱によるQOLへの影響解析と治療指針の作成	高橋 悟	泌尿器科	50万円	補	ロート女性健康化学研究助成
初発肝細胞癌に対する切除術とラジオ焼灼療法の有効性に関する他病院共同研究	高山 忠利	消化器外科	15万円	補	厚生労働省
画像解析による肝細胞癌形態分析システムの樹立	中山 壽之	消化器外科	800万円	補	日本大学学術研究助成金
切除不能大腸がんに対する抗癌剤感受性予測遺伝子による個別化医療の実践	緑川 泰	消化器外科	400万円	補	科学研究費補助金 基盤 (C)

注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発

及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計 45 件

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cryobiology	Preliminary report of novel technique for cryopreservation-Vaccum-assited cryoprotectant infiltration	Kazutaka Soejima	形成外科
日本眼科学会雑誌 115巻4号 362-367 (2011.4)	正常眼圧緑内障の視野障害の左右差と眼球・解剖学的因子の左右差との関連	早水扶公子, 山崎芳夫, 中神尚子	眼科
眼科 53巻4号 471-478 (2011.4)	上眼瞼結膜にみられたMALTリンパ腫の2例	平山真理子, 稲田紀子, 庄司純, 澤充, 杉谷雅彦	眼科
眼科 53巻5号 701-709 (2011.5)	Real-time PCRを用いて涙液中HSV-DNA量を測定したカポジ水痘様発疹症8例の検討	熊川真樹子, 庄司純, 石森秋子, 稲田紀子, 澤充	眼科
日本眼科学会雑誌 115巻6号 508-515 (2011.6)	春季カルタに対するシクロスポリン点眼液0.1%の全症例	高村悦子, 内尾英一, 海老原信行, 岡本茂樹, 熊谷直樹, 庄司純, 中川やよい, 南場研一, 福島敦樹, 藤島浩, 宮崎大, 大橋裕一	眼科
眼科 53巻8号 1029-1035 (2011.8)	コンタクトレンズ装着者に発症した緑膿菌角膜炎23例の臨床所見の検討	中島基宏, 稲田紀子, 庄司純, 澤充	眼科
眼科手術 24巻4号 508-512 (2011.10)	外傷性低眼圧黄斑症に強膜内陥単独手術が奏功した1例	佐々木郁恵, 佐藤幸裕, 石崎こずえ	眼科
眼科 53巻11号 1655-1661 (2011.10)	重症度に左右差がある春季カルタ2症例の涙液ケモカインプロファイル	大澤彰, 堀真輔, 庄司純, 稲田紀子, 澤充	眼科
あたらしい眼科 25巻11号 1651-1654 (2011.11)	ポインティング法を用いた視覚の自己中心的定位	江崎英子, 山崎芳夫	眼科
眼科 53巻12号 1759-1766 (2011.11)	円錐角膜における視力予後の検討	高浦典子, 澤充	眼科
日本眼科学会雑誌 115巻12号 1079-1085 (2011.12)	タクロリムス点眼液0.1%で治療した春季カルタ症例の涙液アレエルギー関連因子の検討	堀真輔, 庄司純, 稲田紀子, 澤充	眼科
日本眼科学会雑誌 116巻2号 114-118 (2012.2)	両眼局所麻酔で増殖糖尿病網膜症に対する早期硝子体手術が施行できたPrader-Willi症候群の1例	堀秀行, 佐藤幸裕, 中島基弘	眼科
Jpn J Ophthalmol May 55:277-82. 2011	Regulation of soluble interleukin-6 (IL-6) receptor release from corneal epithelial cells and its role in the ocular surface	Sugaya S, Sakimoto T, Shoji J, Sawa M	眼科
Jpn J Ophthalmol Jul 55:418-9. 2011	Acute hydrops in a host cornea after penetrating keratoplasty for keratoconus	Oshida T, Fushimi N, Sakimoto T, Sawa M	眼科
Cornea Jul30:784-6. 2011	Demographic study of expulsive hemorrhages in 3 patients with infectious keratitis	Oshida T, Kamura Y, Sawa M	眼科
Jpn J Ophthalmol Sep 55:534-40. 2011	Transconjunctival immunotherapy using cholera toxin B to treat experimental allergic conjunctivitis in a mouse model	Oikawa A, Shoji J, Inada N, Sawa M	眼科
Cornea Oct 1:45-9. 2011	MT1-MMP cleavage of the antiangiogenic proteoglycan decorin: role in corneal angiogenesis	Mimura T, Chang JH, Kim TI, Onguchi T, Kojima T, Sakimoto T, Azar DT.	眼科
Jpn J Ophthalmol Jan 56:20-5. 2012	Differential contributions of impaired corneal sensitivity and reduced tear secretion to corneal epithelial disorders	Nishida T, Chikama T, Sawa M, Miyata K, Matsui T, Shigeta K	眼科
Exp Eye Res Apr 97:98-104. 2012	Anti-inflammatory effect of IL-6 receptor blockade in corneal alkali burn	Sakimoto T, Sugaya S, Ishimori A, Sawa M	眼科
Allergol Int Mar 61:331-8. 2012	Evaluation of eosinophilic inflammation in a novel murine atopic keratoconjunctivitis model induced by crude Dermatophagoides	Hara Y, Shoji J, Hori S, Ishimori A, Kato H, Inada N, Sawa M	眼科
CORONARY ARTERY DISEASE 22巻 125-130, 2011	Association of the Serum Apolipoprotein Levels with the Occurrence of Coronary Spasm.	Shigemasa Tani	循環器内科
HEART AND VESSELS 27巻 143-150, 2011	Development of a Model for Prediction of Coronary Atherosclerotic Regression: Evaluation of High-density Lipoprotein Cholesterol Level and Peripheral Blood	Shigemasa Tani	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 580-588, 2011	Atropine Sulfate for Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest due to Asystole and Pulseless Electrical Activity.	The Survey of Survivors After Out-of-hospital Cardiac Arrest in KANTO Area, Japan (SOS-KANTO) Study Group (Ken Nagao)	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 1573-1574, 2011	Less Invasive Approach to the Assessment of Coronary Artery Disease -Morphological vs. Physiological Paradigm -	Naoya Matsumoto, Yasuyuki Suzuki	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 376-382, 2011	Combined Assessment of Myocardial Perfusion and Function by ECG-Gated Myocardial Perfusion Single-Photon Emission Computed Tomography for the Prediction of Future Cardiac Events in Patients With Type 2	Masahiko Kato, Naoya Matsumoto	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 1448-1454, 2011	Plaque-stabilizing effect of atorvastatin is stronger for plaques evaluated as more unstable by angiography and intravenous	Atsushi Hirayama	循環器内科
Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology 30巻 17-25, 2011	A quantitative and qualitative analysis of the virtual unipolar electrograms from non-contact mapping of right or left-sided outflow tract premature ventricular contractions/ventricular tachycardia origins.	Yasuo Okumura	循環器内科
Heart Rhythm	Smoking and the risk of the perpetuation of atrial fibrillation: Under debate in large cohort studies.	Yasuo Okumura	循環器内科

Journal of Cardiovascular Electrophysiology	Impact of Biomarkers of Inflammation and Extracellular Matrix Turnover on the Outcome of Atrial Fibrillation Ablation: Importance of Matrix Metalloproteinase-2 as a Predictor of Atrial Fibrillation Recurrence.	Yasuo Okumura	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 50-55, 2011	Temperature-controlled cooled-tip radiofrequency linear ablation of the atria guided by a real time position management.	Ichiro Watanabe, Nuo Min	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 565-570, 2011	Lesion formation by ventricular septal ablation with irrigated electrodes.	Koichi Nagashima, Ichiro Watanabe	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 98-102, 2011	Prolonged QRS duration in lead V2 and risk of life threatening ventricular arrhythmia in patients with Brugada syndrome.	Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 159-163, 2011	A new criteria differentiating type 2 and 3 Brugada patterns from ordinary incomplete right bundle branch block.	Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe	循環器内科
JOURNAL OF ELECTROCARDIOLOGY 44巻 353-356, 2011	Functional atrioventricular block in an elderly patient with acquired long QT syndrome: evaluation of the mechanism of	Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 290-294, 2011	Clarifying the Arrhythmogenic Substrate for Brugada Syndrome: Electroanatomic Mapping Study of the Right Ventricle.	Masayoshi Kofune, Ichiro Watanabe	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 2080-2086, 2011	Effects of Quinidine on the Action Potential Duration Restitution Property in the Right Ventricular Outflow Tract in Patients with Brugada Syndrome.	Sonoko Ashino, Ichiro Watanabe	循環器内科
Journal of Cardiovascular Electrophysiology 22巻 987-993, 2011	Impact of Biomarkers and Extracellular Matrix Turnover on the Outcome of Atrial Fibrillation Ablation: Importance of Matrix Metalloproteinase-2 as a Predictor of Atrial Fibrillation Recurrence.	Yasuo Okumura, Ichiro Watanabe	循環器内科
CIRCULATION JOURNAL 75巻 2559-2565, 2011	Association between epicardial adipose tissue volumes on 3-dimensional reconstructed CT images and recurrence of atrial fibrillation after catheter ablation.	Koichi Nagashima, Yasuo Okumura	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 393-397, 2011	Combined Effect of Disopyramide and Erythromycin on Ventricular Repolarization in Dogs with Complete Atrioventricular Block.	Ichiro Watanabe	循環器内科
INTERNATIONAL HEART JOURNAL 52巻 318-322, 2011	Effect of ATP-Sensitive K <sup>+</sup> Channel Opener Nicorandil in a Canine Model of	Ichiro Watanabe	循環器内科
Journal of cardiology 58巻 92-98, 2011	Stent thrombosis and drug-eluting stents.	Takayama T	循環器内科
International Heart Journal 52巻 343-347, 2011	Low-density Lipoprotein Cholesterol/Apolipoprotein B Ratio May Be a Useful Index That Differs in Statin-Treated Patients With and Without Coronary Artery Disease A Case Control Study.	Shigemasa Tani	循環器内科
American Journal of Cardiovascular Drugs 11巻 411-417, 2011	HMG-CoA Reductase Inhibitor (Statin) Therapy and Coronary Atherosclerosis in Japanese Subjects: Role of High-Density Lipoprotein	Shigemasa Tani	循環器内科
心臓血管外科テキスト, 改訂2版: 431-437, 2011	急性動脈閉塞症(塞栓症、血栓症)	前田 英明	血管外科
血栓と循環, 19(3):354-362, 2011	間歇性跛行を有するあるいは有さない末梢動脈疾患患者のトレッドミル運動と筋力耐性訓練の検討—無作為任意抽出試験	前田 英明	血管外科
血管外科, 30(1):120-126, 2011	例	飯田 絢子	血管外科
日大医学雑誌, 71(1):31-34, 2012	深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症例からみた治療法、予防法—大災害時の対応—	前田 英明	血管外科
J Neurol 258(7):1351-3, 2011	Anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis associated with carcinosarcoma with neuroendocrine differentiation of the	Hara M, Morita A, Kamei S, Yamaguchi M, Homma T, Nemoto N, et al.	病理診断科
Annals of Thoracic Cardiovascular Surgery 17: 618-623, 2011	A surgical case of mitral regurgitation due to active infective endocarditis with idiopathic thrombocytopenic purpura.	Sezai A, Akiyama K, Fukushima S, Hemmi A, et al.	病理診断科
組織細胞化学2011pp229-238, 2011	病理診断におけるレーザーマイクロダイセクションの応用	中西陽子、根本則道	病理診断科
病気の分子形態学 73-76, 2011	ディープエッチング法の病理診断学的応用	逸見明博	病理診断科
Neurosci. Res 71:85-91, 2011	Sensory tract abnormality in the chick model of spina bifida.	R. Tsulimura, K. Mominoki, M. Kinutani, et al.	病理診断科
Breast Cancer 18(2):98-102, 2011	Alternation of immunohistochemical biomarkers between pre- and post-chemotherapy: Hormone receptors, HER2 and Ki-67.	Kumaki N, Tang XY, Umemura S, et al.	病理診断科
Breast Cancer published online, 2011	A case report of pigmented mammary Paget disease mimicking nevus of the nipple.	Tang XY, Umemura S, Kumaki N, Izumi M, Tokuda Y	病理診断科
病理と臨床. 臨時増刊号 病理診断に役立つ分子生物学 29:249-254, 2011	第2部 病理診断医になじみのある疾患関連分子 ER(estrogen receptor)・PgR(progesterone receptor)診断編	唐小燕, 植村しのぶ	病理診断科
病理と臨床 29(臨時増刊号):249-254, 2011	ER(estrogen receptor)・PgR(progesterone receptor)診断編	唐小燕, 増田しのぶ	病理診断科
病理と臨床 29(臨時増刊号):244-248, 2011	ER(estrogen receptor)・PgR(progesterone receptor)解説編	増田しのぶ	病理診断科
病理と臨床 29(4):353-359, 2011	HER2検査の精度管理	増田しのぶ, 熊木伸枝, 津田均	病理診断科
病理と臨床 29(4):389-393, 2011	Trousseau症候群をきたした進行胃癌の1例	熊木伸枝, 植村しのぶ	病理診断科
検査と技術 39(12):1009-1012, 2011	HER2検査・病理診断の精度管理	植村しのぶ	病理診断科

Orphanet Journal of Rare Diseases 6:78-86, 2011	Anderson's disease/chylomicron retention disease in a Japanese patient with uniparental disomy 7 and a normal SAR1B gene protein coding sequence.	Tomoo Okada, Michio Miyashita, Junji Fukuhara, Masahiko Sugitani, et al.	病理診断科
Experimental and therapeutic Medicine 387, 2011	Long-term follow-up of localized, primary gastric diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab and GHOP.	Yujin Kobayashi, Yoshihiro Hatta, Atsuko Hojo, Masahiko Sugitani, Jin Takeuchi, et al.	病理診断科
日大医誌 70(2):112-115, 2011	Positive expression of macrophage inflammatory protein-1 $\alpha$ and -1 $\beta$ in a patient with diffuse large B-cell lymphoma accompanied by hypercalcemia and multiple osteolysis.	Kobayashi Y, Hatta Y, Hirabayashi Y, Hojo A, Tanaka T, Kakei K, Ishizuka H, Sugitani M, Aizawa S, Takeuchi J	病理診断科
Surg Today 41(5):741-4, 2011	Isolated tuberculous liver abscess invading the abdominal wall: Report of a case.	Abe K, Aizawa T, Maebayashi T, Nakayama H, Sugitani M, et al.	病理診断科
眼科 53(4):471-478, 2011	上眼瞼結膜にみられたMALTリンパ腫の2例	平山真理子、稲田紀子、庄司純、澤充、杉谷雅彦	病理診断科
腫瘍病理鑑別診断アトラス 大腸癌 234-241, 2011	大腸癌の疫学-剖検情報から-	杉谷雅彦	病理診断科
American Journal of Dermatopathology 33(1):60-64, 2011	Differentiation and Apoptosis in Pilomatrixoma	Toshiyuki Ishige, Kentaro Kikuchi, Kaoru Kusama, Norimichi Nemoto, et al.	病理診断科
癌と化学療法 38(12):2023-2026, 2011	再発巣の局在診断に難渋したインスリノーマのリンパ節・膵内再発の1例	藤崎滋、富田涼一、朴英智、平野智寛、櫻井健一、高山忠利、根本則道	病理診断科
癌と化学療法 38(7):1191-1195, 2011	S-1単独療法が著効し組織学的CRが得られた高度進行残胃癌の1例	岡庭明日生、村山公、網川典子、根本則道、藤井雅志、他	病理診断科
Medical Technology 39:109-112, 2011	【最新染色法のすべて】病理検査 組織内病原体の染色 ウイルス 肝炎ウイルスの染色	尾花ゆかり、植田輝子、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
Medical Technology 40(6):580-585, 2012	【標本のクオリティーを上げる 固定の原理と技術】死後変化および検体採取後の組織変化 自己融解と腐敗	尾花ゆかり、佐野誠、山田勉、根本則道	病理診断科
病理と臨床 30(臨時増刊号):328-334, 2012	【病理解剖マニュアル】(第5部)病理解剖をめぐって 剖検情報データベース	根本則道、植妻嘉晃、水谷剛、藤原恵、高橋学、村上朱美	病理診断科
World J Surg 36(1):144-50, 2012	Validation of biological and clinical outcome between with and without thoracotomy in liver resection: a matched cohort study.	Yamazaki S, Takayama T, Moriguchi M, Sugitani M, et al.	病理診断科
Cancer Science 103(8):1508-1512, 2012	Immunohistochemical Ki67 labeling index has similar proliferation predictive power to various gene signatures in breast cancer.	Niikura N, Iwamoto T, Masuda S, Kumaki N, Tang X, et al.	病理診断科
Pathology International 62(5):295-302, 2012	Breast cancer pathology: The impact of molecular taxonomy on morphological	Masuda S	病理診断科
乳癌の臨床 27(3):321-326, 2012	乳癌におけるKi-67陽性率の評価方法:画像解析装置によるKi-67 labeling indexと病理医目視によるKi-67スコアの比較検討.	唐小燕、熊本伸枝、増田しのぶ	病理診断科
病理と臨床 30(4):460-461, 2012	Secretory carcinoma of the breast.	増田しのぶ	病理診断科
Circ Journal 2011;75(4):932-8.	The follow-up evaluation of electrocardiogram and arrhythmias in children with fulminant myocarditis.	Ichikawa R, Sumitomo N, Komori A, Abe Y, Nakamura T, Fukuhara J, Matsumura M, Miyashita M, Kanamaru H, Ayusawa M, Mugishima H.	小児科
Circ J. 2011;75(3):672-6.	Electrophysiological characteristics of idiopathic ventricular tachycardia in children.	Fukuhara J, Sumitomo N, Nakamura T, Ichikawa R, Matsumura M, Abe O, Miyashita M, Taniguchi K, Kanamaru H, Ayusawa M, Karasawa K, Mugishima H.	小児科
J Pediatr Surg. 2011 Nov;46(11):e25-8.	Application of high-dose rate (60)Co remote after-loading system for local recurrent neuroblastoma.	Sugito K, Furuya T, Kaneda H, Masuko T, Ohashi K, Inoue M, Ikeda T, Koshinaga T, Yagasaki H, Mugishima H, Maebayashi T.	小児外科
Int J Urol. 2011 Dec;18(12):827-34	dedifferentiated fat (DFAT) cells improves urethral sphincter contractility in a rat model.	Obinata D, Matsumoto T, Ikado Y, Sakuma T, Kano K, Fukuda N, Yamaguchi K, Mugishima H, Takahashi S.	泌尿器科
Diabetes Care. 2011 Dec;34(12):2570-5.	Arterial stiffness is associated with incident albuminuria and decreased glomerular filtration rate in type 2 diabetic patients.	Bouchi R, Babazono T, Mugishima M, Yoshida N, Nyumura I, Toya K, Hanai K, Tanaka N, Ishii A, Uchigata Y, Iwamoto Y.	小児科
Blood. 2011 Jun 2;117(22):6046-7	A novel mechanism of transplacental cancer transmission: natural killer/T-cell lymphoma in the paratesticular region is of maternal	Yagasaki H, Ohashi H, Ito M, Kobayashi S, Kato M, Shichino H, Chin M.	小児科
Int J Hematol. 2011 Apr;93(4):566-8	Successful cord blood transplantation in a 42-day-old boy with infantile Krabbe disease.	Yagasaki H, Kato M, Ishige M, Shichino H, Chin M, Mugishima H.	小児科

Haematologica. 2011 Jun;96(6):814-9.	Relapse of aplastic anemia in children after immunosuppressive therapy: a report from the Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group. Kamio T, Ito E, Ohara A, Kosaka Y, Tsuchida M, Yagasaki H, Mugishima H, Yabe H, Morimoto A, Ohga S, Muramatsu H, Hama A, Kaneko T, Nagasawa M, Kikuta A, Osugi Y, Bessho F, Nakahata T, Tsukimoto I, Kojima S; Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group. Haematologica. 2011 Jun;96(6):814-9.	Kamio T, Ito E, Ohara A, Kosaka Y, Tsuchida M, Yagasaki H, Mugishima H, Yabe H, Morimoto A, Ohga S, Muramatsu H, Hama A, Kaneko T, Nagasawa M, Kikuta A, Osugi Y, Bessho F, Nakahata T, Tsukimoto I, Kojima S; Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group.	小児科
Ann Hematol. 2011 Jul;90(7):851-2	Autoimmune hemolytic anemia and autoimmune neutropenia in a child with erythroblastopenia of childhood (TEC) caused by human herpesvirus-6 (HHV-6).	Yagasaki H, Kato M, Shimizu N, Shichino H, Chin M, Mugishima H.	小児科
Hypertens Res. 2011 Aug;34(8):935-41.	Additive antioxidative effects of azelnidipine on angiotensin receptor blocker olmesartan treatment for type 2 diabetic	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Int J Nephrol. Epub 2011 May 14.	Comparison of sustained hemodiafiltration with acetate-free dialysate and continuous venovenous hemodiafiltration for the treatment of critically ill patients with	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Arch Med Sci. 2011 Dec 31;7(6):933-40.	Obesity alters the expression profile of clock genes in peripheral blood mononuclear	田平 和宣	腎臓高血圧内分泌内科
Clin Nephrol. 2011 Nov;76(5):401-6.	Disopyramide-induced hypoglycemia in a non-diabetic hemodialysis patient: a case report and review of the literature.	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
J Atheroscler Thromb. 2011;18(11):1018-28. Epub 2011 Sep 15.	Effects of lipid-lowering therapy with rosuvastatin on kidney function and oxidative stress in patients with diabetic nephropathy.	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Endocr J. 2011;58(11):979-87. Epub 2011 Sep 15.	The dipeptidyl peptidase-4 (DPP-4) inhibitor vildagliptin improves glycemic control in type 2 diabetic patients undergoing hemodialysis.	伊藤 緑	腎臓高血圧内分泌内科
Endocr J. 2011;58(8):663-74. Epub 2011 Jun 14.	Efficacy analysis of the lipid-lowering and renoprotective effects of rosuvastatin in patients with chronic kidney disease.	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Mod Rheumatol. 2012 Feb;22(1):73-9.	High circulating levels of interleukin-18 binding protein indicate the severity of glomerular involvement in systemic lupus erythematosus.	清水 千枝	腎臓高血圧内分泌内科
Diabetes Res Clin Pract. 2011 Jun;92(3):e66-9.	Serum interleukin-18 binding protein increases with behavior different from IL-18 in patients with diabetic nephropathy.	藤田 宣是	腎臓高血圧内分泌内科
Artif Organs. 2011 Apr;35(4):398-403.	Characterization of insulin adsorption behavior of dialyzer membranes used in hemodialysis.	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Clin Exp Nephrol. 2011 Jun;15(3):414-8. 日本急性血液浄化学会雑誌(2185-1085)2巻1号 Page81-86(2011.04)	A case of femoral hemorrhage in a patient with microscopic polyangiitis with low levels of myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic autoantibody.	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科
Orthopedics	Evaluation of biomechanical and histological features of vertebrae following vertebroplasty using hydroxyapatite blocks.	Masashi Oshima	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル	椎体形成術	網代 泰亮	整形外科
OS NOW Instruction 10	vertebroplasty	網代 泰亮	整形外科
別冊 整形外科	骨粗鬆症性椎体骨折新鮮例に対するバイドロキシアパタイトブロックを用いた椎体形成術の長期治	松木 健一	整形外科
東日本整形災害外科学会誌	骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対するHA blockによる椎体形成術の有効性と限界	上井 浩	整形外科
Journal of Spine Research	椎間可動性を温存した椎弓根スクリューの開発	大島 正史	整形外科
日救急医学会誌	市中型MRSA (GA-MRSA) 感染により, toxic shock syndromeを来した1例-抗菌薬の選択についての考察 22: 70-75, 2011	桑名 司, 木下浩作, 上原由紀, 他	救命救急センター
J Emerg Med.	Effects of bag-mask versus advanced airway ventilation for patients undergoing prolonged cardiopulmonary resuscitation in pre-hospital setting. 42 (2): 162-170, 2012	Nagao T, Kinoshita K, Sakurai A, Yamaguchi J, et. al	救命救急センター
日大医誌71(1): 6-9, 2012	災害拠点病院における災害医療体制	木下浩作, 丹正勝久	救命救急センター
改訂第4版 日本救急医学会監修 日本救急医学会専門医認定委員会編集 へるす出版 pp608-614, 2011.	頭蓋内圧亢進 救急診療指針	木下浩作	救命救急センター
医学書院 pp43-44, 2011	脳振盪 救急医療 今日の診療指針	木下浩作	救命救急センター
総合医学社 pp312-319	神経保護・神経再生: 救急・集中治療医学レビュー 2011	木下浩作	救命救急センター
へるす出版pp1411-1416.	脳梗塞・一過性脳虚血発作 救急薬剤プラクティカルガイド	木下浩作	救命救急センター
医学書院 pp42-43, 2012	脊髄損傷 救急医療: 治療 今日の診療指針	木下浩作	救命救急センター
ICUとCCU 36:91-98, 2012	頭部外傷に対するTherapeutic Hypothermia中の全身管理と合併症対策	木下浩作, 丹正勝久	救命救急センター

総合医学社 pp25-27, 2012 岡元和文 編著	心停止後症候群患者に対する低体温療法 の指針救急・集中治療ガイドライン 2012-2013	木下浩作	救命救急センター
救急医学36: 695-697, 2012 へする出版	脳卒中診療におけるチーム医療 チーム医療の実践	櫻井 淳、木下浩作	救命救急センター
岡元和文 編著pp398 69-75, 2012 総合医学社 東京	成人心肺蘇生中と蘇生後の輸液管理-蘇生後脳低温療法管理を含む- 判りやすい輸液管理のQ&A 研修医からの質問	木下浩作 丹正勝久	救命救急センター
板橋医師会医学学会誌. 16: 285-287, 2011	救命救急センターに入院した患者の情報収集とその後の継続外来管理に関する医療連携の重要性:	守谷 俊, 山口順子, 野田彰浩, 他	救命救急センター
日大医学雑誌. 71: 14-18, 2012	災害時超急性期に展開される最善の医療	守谷 俊, 丹正勝久	救命救急センター
日本集中治療医学会雑誌 18(1)89-93, 2011	急性硬膜下血腫術後管理に脳内グルタミン酸測定が有用であった2症例.	向山剛生, 守谷 俊, 宮下直也, 他	救命救急センター
レジデント 4(7): 156-165, 2011	蘇生後脳症の管理.	守谷 俊	救命救急センター
救急・集中治療医学レビュー 2011, 総合医学社 2011, 139-147	代謝・内分泌疾患への対応 (糖尿病, 肝不全, 内分泌異常など)	守谷 俊, 丹正勝久	救命救急センター
救急医学 35(8): 918-922, 2011	穿頭ドレナージ・開頭および閉頭	守谷 俊	救命救急センター
日本臨床 69: 186-188, 2011	急性心筋梗塞の治療戦略 低体温療法	守谷 俊	救命救急センター
日本臨床 69(4) 642-647, 2012	脳低温療法	櫻井 淳	救命救急センター
救急・集中治療医学レビュー 最新主要文献と解説 2012-' 13(岡元和文、横田裕行編) 総合医学社 pp342-347, 2012	神経保護、神経再生	櫻井 淳、木下浩作	救命救急センター
救急・ERノート3 症例から学ぶERの輸液 (三宅康史編) 羊土社 pp212-220, 2011	心肺停止蘇生後脳症 (脳低温療法)	櫻井 淳	救命救急センター
救急・集中治療医学レビュー2012, 総合医学社, 161-168, 2012	III救急疾患への対応4. 代謝内分泌疾患への対応 (糖尿病, 肝不全, 内分泌異常など)	野田彰浩	救命救急センター
日大医学雑誌71(2月) 10~13, 2012	災害時のDMAT活動と役割	山口順子 丹正勝久	救命救急センター
International Medical Journal. 2012; (19) 65-66.	A patient in whom treatment for Coxiella burnetii infection ameliorated a depressive state and thoughts of impending death	Arashima Y, Kato K, 他	総合科 (内科)
Ann Noninvasive Electrocardiol. 2011 Apr; 16(2): 156-64.	Automated versus manual measurement of the QT interval and corrected QT interval.	Kasamaki Y, 他	総合科 (内科)
HEART AND VESSELS. 印刷中	Relationship between status of plasma atrial natriuretic peptide and heart rate variability in human subjects.	Kasamaki Y, 他	総合科 (内科)
Cell Metab. 2011 Aug 3; 14(2): 231-41.	TRIC-A Channels in Vascular Smooth Muscle Contribute to Blood Pressure Maintenance.	Soma M, 他	総合科 (内科)
心電図 (0285-1660) 32巻Suppl. 2 PageS-2-73	Brugada症候群における24時間Holter心電計を用いた心房および心室遅延電位の日内変動の検討尿中にクリオグロブリン活性を認めた多発性骨髄腫	橋本賢一	総合科 (内科)
Ann Noninvasive Electrocardiol 16(2): 156-164, 2011	Automated versus manual measurement of the QT interval and corrected QT interval.	中山 智祥	臨床検査医学科
日大医学雑誌. 70(2): 121-124, 2011. 4	Common diseaseの疾患感受性遺伝子検索法の変遷 - 本態性高血圧症を中心として -	中山 智祥	臨床検査医学科
Gardiovasc Diabetol. 10:45, 2011	Adverse effect profile of trichlormethiazide: a retrospective observational study.	中山 智祥	臨床検査医学科
Gardiovasc Diabetol. 10:74, 2011	Comparative effect of olmesartan and candesartan on lipid metabolism and renal function in patients with hypertension: a retrospective observational study.	中山 智祥	臨床検査医学科
医療と検査機器・試薬. 34(4): 547-553, 2011. 8	生化学検査試薬メジャーシリーズ「TC, TG, LDL, HDL, UA, UN, CRE」の基礎的検討.	中山 智祥	臨床検査医学科
Investigative Ophthalmology & Visual Science 52(10): 7441-7444, 2011	Associations of Complement Factor H and ARMS2 Genotypes with Subtypes of Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	中山 智祥	臨床検査医学科
Molecular Vision 17: 2751-2758, 2011	Analysis of candidate genes for age-related macular degeneration subtypes in the Japanese population.	中山 智祥	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会雑誌. 37(1): 39-46, 2012	出現実績ゾーン法による変異ヘモグロビン検出法の検討.	中山 智祥、里村 厚司	臨床検査医学科
Clin Appl Thromb Hemost 2012 Feb 12. [Epub ahead of print].	A Novel Polymorphism of the CYP4A11 Gene is Associated With Coronary Artery Disease.	中山 智祥	臨床検査医学科
Heart Vessels 2012 Feb 28. [Epub ahead of print]	Relationship between status of plasma atrial natriuretic peptide and heart rate variability in human subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会. 37(3): 121-128, 2012	HLC-723G9型HbA1c測定用HPLCの検討. (技術論文)	中山 智祥、里村 厚司	臨床検査医学科
Transl Res 2012 Jul 31. [Epub ahead of print]	Association between SIRT2 gene polymorphism and height in healthy, elderly Japanese	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas in press 2012	Haplotype of smoothelin gene associated with essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
Genetic Testing and Molecular Biomarkers in press 2012	A haplotype of the smoothelin gene associated with myocardial infarction in Japanese women.	中山 智祥	臨床検査医学科
Vascular Medicine in press 2012	Association of smoothelin (SMTN) gene with cerebral infarction in men: a haplotype-based case-control study.	中山 智祥	臨床検査医学科
Endocrine in press 2012	Estrogen synthesis genes CYP19A1, HSD3B1 and HSD3B2 in hypertensive disorders of pregnancy.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas in press 2012	Haplotype-based case-control study of CYP4A11 gene and myocardial infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
日大医学雑誌 印刷中 2012	日本大学医学部附属板橋病院院内検査での習慣流産における染色体異常の実態調査.	中山 智祥、里村 厚司	臨床検査医学科

Hereditas in press 2012	The insulin-like growth factor-1 gene is associated with cerebral infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Pain Medicine in press 2012	Incidence and prognosis of persistent pain induced by venipuncture for blood sampling: an observational study over a 5-year period.	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of innate immunity 4:293-300, 2012	Functional mannose-binding lectin levels in patients with end-stage renal disease on maintenance hemodialysis	里村 厚司、中山 智祥	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会。37(3): 293-297, 2012	全自動電気泳動装置エパライザ2を用いた新規アミラーゼアインザイム測定法の検討。(技術論文)	星野 忠、中山 智祥	臨床検査医学科
Acra Med Okayama, 66:41-51, 2012	Preferable Forms of Relaxation for Health Promotion, and the Association between Recreation Activities and Self-perceived	Uchiyama Mら	精神神経科
Sleep med 13:43-51, 2012	Chronic insomnia, quality-of-life, and utility scores: Comparison with good sleepers in a cross-sectional international survey.	Uchiyama Mら	精神神経科
Sleep and Biological Rhythms 9:63-72, 2011	Clinical significance and management of insomnia	Uchiyama Mら	精神神経科
J Affect Disord 130:75-82, 2011	Self-help behaviors for sleep and depression: A Japanese nationwide general population	Uchiyama Mら	精神神経科
Sleep Med 12:127-33, 2011	Long-term safety and efficacy of ramelteon in Japanese patients with chronic insomnia	Uchiyama Mら	精神神経科
Sleep Med 12:119-26	Evaluation of subjective efficacy and safety of ramelteon in Japanese subjects	Uchiyama Mら	精神神経科
Expert Rev. Neurother	Efficacy and safety of ramelteon in Japanese adults with chronic insomnia: a	Uchiyama Mら	精神神経科
Lancet 377:874, 2011	Hyperglycemia and self-harming	Uchiyama Mら	精神神経科
Journal of Obstetrics and Gynecology Research 201137(8):1076-83	Effects of anti- $\alpha$ -glycoprotein I antibody on PlGF, VEGF and sVGFRI production from cultured choriocarcinoma cell line	Ichikawa G, Yamamoto T, Chisima F, Nakamura A, Kuno S, Murse T, and Suzuki M	産婦人科
日本産科婦人科学会東京地方部会誌 第60巻, 第1号 pp157-159, 2011	腹腔鏡下卵管形成術後の卵管妊娠の根治術後に体外受精胚移植にて妊娠分娩に至った1症例	青木洋一、小林祐介、千島史尚、加藤恵利奈、友部淳子、林 忠佑、高田真一、松浦眞彦、三宅良明、山本樹生	産婦人科
臨床免疫・アレルギー科 56巻, 4号, pp381-385, 2011	特集 I 生殖と免疫, 妊娠維持と子宮マクロファージによるT細胞抑制	千島史尚, 山本樹生	産婦人科
産婦人科の実際 60巻, 10号 pp1461-1466, 2011.10	抗リン脂質抗体と不育症	山本樹生, 中村晃和, 市川剛, 佐々木重胤, 千島史尚	産婦人科
American Journal of Reproductive Immunology 2012 67(1):413-420	Effect on the production of soluble endog in from human choriocarcinoma cells by preeclampsia sera.	Aoki T, Yamamoto T, Fumihisa C, Nakamura A, Asanuma A, Suzuki M	産婦人科
Int. J Urol	Laparoscopic transvesical removal of erosive mesh after transobturator tape procedure	Yoshizawa toyoshi	泌尿器科
Int. J Urol	Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells improves urethral sphincter contractility in rat	Obinata daisuke	泌尿器科
Int. J cancer	Oct1 regulates cell growth of LNCap cells and is a prognostic factor for prostate cancer	Obinata daisuke	泌尿器科
Japanese Journal of Clinical Oncology 41巻, 4号, 447-454, 2011.4	Surgical treatment of hepatocellular carcinoma.	Tkayama T	消化器外科
Experimental and therapeutic Medicine 2巻, 3号, 425-431, 2011.5	High TSC2SD3 and low GBP1 expression in the liver is a risk factor for early recurrence of hepatocellular carcinoma.	Tkagi K, Takayama T, Nagase H, Moriguchi M, Wang X, Hirayanagi K, Suzuki T, Hasegawa H, Ochiai T, Yamaguchi N, Kochi M, Kimura M, Esumi M	消化器外科
Anticancer Research 31巻, 6号, 2339-2342, 2011.6	Complete response to chemoradiotherapy in a patient with synchronous double gastric and esophageal cancer.	Yoshida N, Kochi M, Fujii M, Kanamori N, Kaiga T, Mihara Y, Funada T, Tamegai H, Watanabe M, Takayama T	消化器外科
Bioscience trends. 5巻, 5号, 223-225, 2011.10	A case of Fournier's gangrene after liver transplantation: treated by hyperbaric oxygen therapy.	Yoshida N, Ymazaki S, Takayama T	消化器外科
Cancer Chemotherapy and Pharmacology 68巻, 5号, 1215-1222, 2011.11	Phase II study of FOLFOX4 with "wait and go" strategy as first-line treatment for metastatic colorectal cancer.	Kochi M, Ichikawa W, Meguro E, Shibata H, Fukui T, Nagase M, Hoshino Y, Takeuchi M, Fujii M, Nakajima T	消化器外科
Archives of Surgery 146巻, 11号, 1293-1299, 2011.11	Transfusion criteria for fresh frozen plasma in liver resection: a 3+3 cohort expansion study.	Yamazaki T, Takayama T, Kimura Y, Moriguchi M, Higaki T, Nakayama H, Fujii M, Makuuchi M	消化器外科
Anticancer Research 31巻, 11号, 3991-3993, 2011.11	Resection of solitary metachronous lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma following transarterial chemotherapy with cisplatin: a case report	Kurokawa T, Yamazaki S, Moriguchi M, Aoki M, Watanabe Y, Higaki T, Takayama T	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 72巻, 3号, 262-268, 2011.4	肝reactive lymphoid hyperplasia 1例	山崎慎太郎, 高山忠利, 岩間敦子, 吉田直, 渡邊慶史, 檜垣時夫, 杉谷雅彦	消化器外科
消化器外科 34巻, 6, 951-955, 2011.6	【アトラスで学ぶ 達人の手術】肝・胆・膵の手術 肝尾状葉切除術	檜垣時夫, 高山忠利	消化器外科
The Liver Cancer Journal	尾状葉肝癌の切除「あなたならどうする？」	中山壽之, 高山忠利	消化器外科



外科治療 104巻, 増刊, 843-849, 2011.6	【がん患者の周術管理のすべて】術後のがん化学療法の実際 肝癌術後化学療法の立場から	森口正倫, 高山忠利	消化器外科
内科 108巻, 2号, 337-341, 2011.8	診療controversy medical decision makingのために初発肝細胞癌の治療 肝切除の立場から	山崎慎太郎, 高山忠利	消化器外科
The Liver Cancer Journal 65巻, 10号, 1421-1426, 2011.9	肝細胞癌診療アルゴリズムの東西 治療アルゴリズムの東西	緑川泰, 高山忠利	消化器外科
手術 65巻, 10号, 1421-1426, 2011.9	【肝胆臓高難度手術のすべて】肝臓手術 亜区域切除術	梶原崇弘, 高山忠利	消化器外科
日本医師会雑誌 140巻, 8号1681-1684, 2011.11	【わが国における消化器外科の現状と今後】肝臓外科における現状と今後	高山忠利, 緑川泰	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 72巻, 11号, 2914-2918, 2011.11	肝管ステントの閉塞による臍腫瘍による臍頭十二指腸切除術を行った1例	宮国泰己, 山崎慎太郎, 西田茂, 絹川典子, 高山忠利	消化器外科
消化器外科Nursing 16巻, 11号, 1092-1099, 2011.11	【イラストたっぷり7日間でわかる! 肝がんの治療とケア完全マスター】(4日目)冠動脈側線療法	森口正倫, 高山忠利	消化器外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

計 188 件

## (様式第 12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 澤 充
管理担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 医事課長：小峰 勝 病歴課長：千葉 哲夫 医学部庶務課長：小林 好伸 医薬品安全管理責任者：吉田 善一 医療機器安全管理責任者：麦島 秀雄

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	庶務課 病歴課	病院日誌については、日別、年度別に保管。病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルし、保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科
	高度の医療の研修の実績	当該診療科
	閲覧実績	病歴課 庶務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課 庶務課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 庶務課
第規一則号第一に掲げる十一の体制第一項の各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長 杉山 晴比古
閲覧担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 会計課長：長田 剛 医事課長：小峰 勝 病歴課長：荻原 恒明 資材課長：石川 誠 医学部庶務課長：小林 好伸
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 2 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	64%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	23,512人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,183人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	7,156人	
	D：初診の患者の数	59,051人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定，平成24年7月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成24年7月改訂）</li><li>・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。</li><li>・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成18年9月改訂）</li></ul> <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，平成24年7月改訂）</li><li>・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定，平成17年11月改訂）</li></ul> <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成24年7月改訂）</li><li>・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告フローチャート（平成12年5月制定，平成13年2月改訂，平成13年4月改訂，平成16年1月改訂）</li><li>・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成19年9月改訂）</li></ul> <p>⑤ 患者相談室窓口運用要項（平成15年10月制定，平成16年1月改訂）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者相談窓口フローチャート</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。</p> <p>① 平成23年6月3日（金），6日（月），7日（火），8日（水） ※第1回医療安全講習会 「緊急輸血について」，「虐待防止委員会の活動について」他</p> <p>② 平成23年11月11日（金），16日（水），17日（木），18日（金） ※第2回医療安全講習会 「医療用麻薬の安全な使用について」 「事例から学ぶフューマンエラー」他</p> <p>③ 平成23年3月8日（水），9日（木），12日（月），3月13日（火） ※第3回医療安全講習会 「現場における最近の医療安全活動について」 「個人情報に関する留意事項について」他</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  ・無 )
  - ・ インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ① インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。
  - ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアアクセスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事件事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
  - ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。
  - ④ 医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。
  - ⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。
  - ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
  - ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況  ( 1 名 ) ・無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  ( 5 名 ) ・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況  ・無

- ・ 所属職員： 専任 ( 1 ) 名 兼任 ( 10 ) 名
- ・ 活動の主な内容：
  - ・ 医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況  ・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>基本理念，基本方針，専任者の配置，感染防止対策委員会の設置，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>院内の感染症情報の共有，感染対策講習会の準備（企画）と開催，参加状況の把握感染対策マニュアルの改訂，医療安全ポケットマニュアル第7版の作成，標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド，事例検討会，新型インフルエンザ対策，ワクチン接種，安全器材のサンプル等について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策講習会</li> </ul> </li> </ul>	
講習会 1      2011 年 5/23 (月)・6/10 (金) 17:30～	「事件は現場でおきている」（感染防止対策の基本） <ul style="list-style-type: none"> <li>職業感染防止対策：当院導入の器材の紹介，H22 年度エピソード日本語版集計報告</li> <li>分離菌サーベイランス：H22 年度耐性菌検出状況，JANIS からの当院の分離率の報告</li> <li>今年度の感染防止対策方針：耐性菌による病院感染ゼロを目指して，手指衛生の徹底，標準予防策の徹底，経路別予防対策の徹底</li> </ul>
講習会 2 7/26 (火)・8/10 (水) 17:30～	「遠くバイ菌の輪接するところまで…まためぐりあいましょう…」（接触感染予防） <ul style="list-style-type: none"> <li>多剤耐性菌対策の対策について</li> <li>抗菌薬の適性使用について</li> <li>事例報告：私の病棟でのノロウイルス対策</li> <li>吐物処理について</li> </ul>
講習会 3 9/30 (金)・10/3 (月) 17:30～	「逃げるな！！ここで逃げたら逃げ癖がつくぞ」（空気感染予防） <ul style="list-style-type: none"> <li>結核症の早期診断のポイント</li> <li>QFT 検査</li> <li>検体採取の正しい取り方：喀痰検査</li> </ul>
講習会 4 11/10 (木)・12/6 (火) 17:30～	「あたしを愛しているのなら，近づくインフルエンザを一匹残らず蹴散らして！」 <ul style="list-style-type: none"> <li>インフルエンザ対策</li> <li>事例報告：私の病棟でのインフルエンザ対策</li> <li>咳エチケット</li> </ul>
講演会 5      2012 年 1/17 (火) 17:30～	院外講師による講演会 「(MRSA) マーサの幸せレシピ」 順天堂大学医学部 感染制御科/総合診療科 上原由紀先生
2/8・9・14・15	DVD による講習会 結核 2 回，インフルエンザ対策 2 回，MRSA2 回

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、と同時に隣室の感染予防対策室の専従の感染管理者への報告があり、現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。速やかな報告書の提出が可能となった。
  - ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週ラウンドで検証している。
  - ・ 手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドを年2回実施。
  - ・ ICLN活動として、自部署のスタッフのチェッカー（ブラックライト）を用いて手指衛生評価の実施。（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）
  - ・ NICUスタッフの手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量の測定
  - ・ 院内における手指消毒の払い出し量のサーベイランスの実施
  - ・ 順次、病棟トイレの改修工事（ゾーニングによる環境整備）
  - ・ CAUTIサーベイランス（神経内科、血液・膠原病内科、泌尿器科、脳神経外科の4部署）、VAPサーベイランス実施（ICU・救命救急センターの2部署）、BSIサーベイランス実施（3N）
  - ・ 蓄尿者の数を制限し汚物処理室の環境整備に努めた。
  - ・ 感染防止対策講習会の内容の充実、参加率向上への取り組み



(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・与薬車の医薬品の保管管理について</li><li>・温度管理が必要な製品の取扱いについて</li><li>・プライマリーケアにおける慢性痛の新しい薬物療法について</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 ( ☑・無 )</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 薬剤管理委員会で手順書の内容については検討修正し、医療安全管理委員会で承認を受け改訂版として運用している。</li><li>・ 薬剤管理委員会の委員が月1~2回の割合で、病棟や外来を巡視し手順書に対応したチェックをし、必要とあれば改善点を指摘したりしている。</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書内へハイリスク薬について、追加項目を設けるとともに、ハイリスク薬一覧を作成。また、一覧は各診療科、外来、病棟に配布し、確認表の提出による周知を行った。</li></ul></li></ul>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療用ライナック（診療用高エネルギー発生装置）について放射線治療のリスクマネジメント、直線加速器の構造、保守管理</li> <li>・ 医療機器の有効性・安全性に関する事故</li> <li>・ 医療機器の使用法に関する事項</li> <li>・ 医療機器の保守点検に関する事項</li> <li>・ 医療機器の不具合が生じた場合の対応に関する事項</li> <li>・ 医療機器の使用に関して発生した場合の対応に関する事項</li> <li>・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 （ ☑・無 ）</li> <li>・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保守点検計画作成をし、実施内容について安全管理者、医療機器管理責任者の評価、確認を得る</li> <li>・ 日常点検（始業前、修理後、週一回のQA・QC）の実施と記録</li> <li>・ 医療用ライナック、RALSに関しては年4回の定期点検をメーカーに依頼し実施している</li> <li>・ 定期点検は、各機器のマニュアルに沿った期間で行い、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリポンプ等、一部の機器は臨床工学技士が行い、その他の機器はメーカーに依頼する。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☑・無 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メーカーからの安全使用に関する情報通知を収集し、関係職員に回覧し、情報の共有化を図りその記録を保管</li> <li>・ 治療計画装置の安全使用を図るためにソフトノバージョンアップを保守契約に含め、常に最新のソフトを使用している</li> <li>・ 病棟巡視を行い、病棟で使用中の機器の確認・目視点検・動作確認を行っている。特に人工呼吸器に関しては、使用の際に臨床工学技士による装着時点検を行なっている。</li> <li>・ 医療安全管理室と連携を取り医療機器安全情報として随時、機器の取り扱いの注意点等をポスター及びチラシ等を発行し、各病棟に配布している。</li> <li>・ 看護師の希望対象者に対して、医療機器の取り扱い等の研修を毎月行なっている。（一回2名約3時）また、全看護師対象に、人工呼吸器、DC等のワンポイント講習を随時開催し、機器の安全使用に必要な知識を伝達している。</li> </ul> </li> </ul>	